

具体的な活動や体験を通して、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成する授業づくり

授業づくりのポイント

※数字は学習と評価の例と対応

① 体験活動と表現活動とが繰り返されるように単元計画を構想し、「*1四つのプロセス」を基にして単元の学習を展開する。

*1四つのプロセス：「思いや願いをもつ」「活動や体験をする」「感じる・考える」「表現する・行為する（伝え合う・振り返る）」の生活科の学習過程

② 児童の思いや願いを大切にし、活動や体験に没頭できるようにする。

③ 見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動を設定し、児童が具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考えることができるようにする。

④ 活動や体験を通して気付いたことなどについて、言葉・絵・動作・劇などの多様な方法で表現して伝えたり、交流したり、振り返って捉え直したりする学習活動を設定する。

⑤ 児童の発言やしぐさを、「*2四つの目」を重視して丁寧に見取ったり、問い掛けたり、共感したり、価値付けたりすることで児童の気付きの質が高まるようにする。また、ねらいを達成した具体的な児童の姿を想定して計画的に見取ることによって、児童の学習状況を把握し、学習と指導の改善を図る。

*2四つの目：「温かい目」「広い目」「長い目」「基本の目」の児童の姿を見取る基本姿勢

体験活動と表現活動が豊かに行き来する学習と単元を見通した評価の例

第1学年 単元名「みんなの にこにこ 大きくせん」＜内容(2) 家庭と生活、(8) 生活や出来事の伝え合い＞

◇単元の目標（一部）

家族が「にこにこ」になるための活動や気付きを伝え合う活動を通して、家庭内で自分ができることなどについて考え、家庭生活は家族に支えられていることや家族と交流するよさが分かるとともに、進んで家族と触れ合うことができるようにする。



◇単元の評価規準（一部）

- ・家庭生活について、調べたり、尋ねたり、実際に役割を行ったりすることを通して、家庭において自分ができることなどを見付けている。【思考・判断・表現】
- ・家庭生活について、調べたり、尋ねたり、実際に役割を行ったりすることを通して、家族と交流しながら自分の役割を積極的に果たそうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】



◇単元の指導と評価の計画（一部）＜全12時間＞ ※○…指導に生かす評価

○…記録に残す評価

ホップ（2時間）みんなの「にこにこ」をさがそう

T：みんなの周りにいる人が「にこにこ」しているのはどんなときですか。笑顔を見たときどんな気持ちですか。気付いたことを話し合みましょう。

●身近にいる人が「にこにこ」しているときについて考え、気付きを表現している。【思・判・表】（発言分析、ワークシート分析）



自分や周りの人がどんな時に笑顔になるのかを考えさせることで、新たな気付きにつなげます。さらに、笑顔を見たときの気持ちを問い返すことで、もっと周りの人を笑顔にしたいという願いをふくらませることができるようになります。①

ステップⅠ（3時間）かぞくの「にこにこ」を見つけよう

●家族に「にこにこ」するときのことをインタビューして、積極的に交流しようとしている。【態】（行動観察、ワークシート分析）



ステップⅡ（5時間）「にこにこ大きくせん」で「にこにこ」をふやそう

○作戦に取り組んだ様子や、やってみて気付いたことを友達に分かりやすく紹介し、もっと家族の「にこにこ」を増やすことを意識して再度作戦の計画を立てている。【思・判・表】（発言分析、ワークシート分析）

＜評価場面の例：「表現する・行為する（伝え合う・振り返る）」の場面＞

T：みんな、「にこにこ大きくせん」は成功しましたか。

S1：私は、箸並べ、玄関掃除、お風呂洗い、部屋の片付けをしました。やるのがいっぱい、1日でできませんでした。



T：作戦をやっているとき、お家の人は「にこにこ」していましたか。

S1：私ができなくて困っていたら、心配そうな顔をしていました。

S2：やることを少なくして、全部できたら笑顔になるのではないですか。

S3：私は、お母さんに「洗濯物を畳んで」と別のことを頼まれました。お母さんのことを考えて、もう一度作戦を立て直してやってみたいです。

T：実際にやってみて、相手のことを考えるなどとてもよいことに気付きましたね。もう一度新しい作戦を考えて挑戦し、もっと家族の「にこにこ」を増やしましょう。

どこでどのように児童の姿を見取っていくか、評価を行う場面を精選し、見直しをもって計画的に指導に生かす評価と記録に残す評価を行うことが大切です。⑤

体験を基に表現させることで、気付きの質の高まりにつなげます。また、引き出したい児童の姿を想定しておくことで、適切な見取りや問い返し、価値付けをすることができます。③④

ジャンプ（2時間）これからも「にこにこ」をつなげていこう

○家庭生活について、自ら進んで関心を持ち、これからも積極的に家族の「にこにこ」を増やしていこうとしている。

【態】（行動観察、発言分析、ワークシート分析）



＜評価場面の例：単元全体の振り返りを記述する場面＞

T：「にこにこ大きくせん」について振り返りをしましょう。「作戦をやってみてうれしかったこと」や、「お家の人を「にこにこ」にするために大切だと思ったこと」を書きましょう。



＜S1のワークシートの記述＞

ほうきではなく、どんどんきれいになってうれしかったです。おかあさんも「ありがとう」といって「にこにこ」しました。これからも、お家の人が「にこにこ」するように、できることをがんばりたいです。



単元の学習を通して、児童にどのような気付きの質の高まりがあったかを見取るために、単元の終末において視点やキーワードを示し、適切な振り返りを行うことが大切です。⑤